慈悲つむぎセミナー

第２講　知っておきたい基礎知識～総大本山と仏事のいろは～

=== スライド番号 : 1 / 34 ===

（＊本文中の●は、パワーポイント画面における、アニメーション効果開始のタイミングを表しています。）

これから慈悲つむぎセミナー第２講、知っておきたい基礎知識～総大本山と仏事のいろは～を始めます。

=== スライド番号 : 2 / 34 ===

本講で学ぶことは、

１．浄土宗の総大本山

２．仏教年中行事

３．浄土宗の葬儀と年回法要

４．仏壇の祀り方とお参り

そして、５．おわりに　作法の授与　をします。

いずれの内容も、非常に大切なことですので、しっかりと学んでいきましょう。

=== スライド番号 : 3 / 34 ===

まずは、１．浄土宗の総大本山についてです。

=== スライド番号 : 4 / 34 ===

浄土宗では総本山と呼ばれる寺院のほか、大本山と呼ばれる寺院が７つあります。

地図で確認しましょう。

京都に総本山・大本山が合わせて４つ、関東に大本山が２つ、信州に大本山が１つ、九州に大本山が１つあります。

=== スライド番号 : 5 / 34 ===

浄土宗の総本山は、京都市東山区にある、知恩院です。正式名称を華頂山知恩教院大谷寺（かちょうざん ちおんきょういん おおたにでら）といいます。ちなみに華頂山を山号、知恩教院を院号、大谷寺を寺号と言います。この山号、院号、寺号という３つの名前は、浄土宗寺院の多くが持っています。是非、菩提寺のそれぞれの名前を確認してみてください。この総本山知恩院は、宗祖法然上人が浄土宗をお開きになった場所です。承安５（１１７５）年、法然上人は比叡山を下り、やがて東山吉水の地、現在の御影堂の東側に住み、念仏の教えを人々に広める生活を営みました。建永２年（１２０７）弟子の犯した罪の責任を負って四国配流となりますが、建暦元年（１２１１）京都に戻ることが許され、翌、建暦２年（１２１２）にこの地でお亡くなりになりました。　現在、高台には法然上人の御廟、つまりお墓があります。御廟の手前には、法然上人の御廟にお参りするための拝殿があり、法然上人を間近に拝することができることから、全国から訪れた檀信徒によるお念仏の声が絶え間なく響き渡っています。それでは、総本山知恩院をより身近に感じてもらうために、動画を見ていただきましょう。

=== スライド番号 : 6 / 34 ===

=== スライド番号 : 7 / 34 ===

つぎに７つの大本山を紹介します。東京都港区にある増上寺、京都府京都市にある金戒光明寺、百萬遍知恩寺、清浄華院、福岡県久留米市にある善導寺、神奈川県鎌倉市にある光明寺、長野県長野市にある善光寺大本願の７つです。この７ケ寺を総称して、七大本山と呼びます。

=== スライド番号 : 8 / 34 ===

　東京にある大本山増上寺は、東京都港区にある寺院で、東京タワーのすぐそばにあります。　江戸時代の初め源誉存応上人が徳川家康の帰依を受けて以後、徳川将軍家の菩提寺として発展しました。２代秀忠（ひでただ）・６代家宣（いえのぶ）・７代家継（いえつぐ）・９代家重（いえしげ）・１２代家慶（いえよし）・１４代家茂（いえもち）の各将軍や多くの親族が祀られています。　また江戸時代には、浄土宗の僧侶を養成する学問所である関東十八 檀林の筆頭でもありました。　当時は境内の面積は21万坪余り、つまり東京ドーム約１５個分の敷地の中に、多くの子院や建物を有する大寺院でした。

=== スライド番号 : 9 / 34 ===

つづいて6つの本山を紹介しましょう。●京都市にある金戒光明寺です。通称黒谷堂、新黒谷ともいいます。法然上人が師である叡空上人から譲り受けた地とされ、その後信空上人とその弟子に引き継がれ伽藍が整えられました。法然上人の筆であると伝えられる「一枚起請文」を所蔵しています。●京都市にある百萬遍知恩寺です。法然上人の弟子、源智上人が興隆しました。後醍醐天皇の時、７日間の百万遍念仏を厳修して、疫病をとどめたので百萬遍の寺号を賜わり、以降、百萬遍知恩寺、略して百山とも呼ばれます。大きな数珠を用いた大念珠繰が有名です●京都にある清浄華院です。清和天皇の勅願により貞観２年（８６０）頃、京都御所の構内に建造され、御祈願などをお勤めしました。 その後、後白河法皇から法然上人に勅授され、浄土宗の寺院として発展しました。●福岡県久留米市にある善導寺です。浄土宗の第二祖である聖光房弁長上人が九州を遊行中、この地に建立したといいます。当寺には、最古の法然上人絵伝との説があるいわゆる『四巻伝』、聖光上人直筆とされる浄土宗の奥義書『末代念仏授手印』などが所蔵されています。●神奈川県鎌倉市にある光明寺は、浄土宗第三祖である良忠上人が開いた寺院です。関東における浄土宗発展の礎となった寺院で、もとは関東総本山といわれ、僧侶教育の根本道場でした。光明寺の十夜法要は、浄土宗の十夜法要の起源とされています。

●長野県長野市にある善光寺大本願です。642年、皇極天皇の命により、蘇我馬子の娘、尊光上人により開山されたと伝えられています。長野の善光寺は現在浄土宗大本山である大本願と天台宗の大本山大勧進の二つによって運営されており、両本坊の住職が善光寺住職となっています。大本願は代々皇族の尼公上人によって法灯が守られています。

=== スライド番号 : 10 / 34 ===

2つ目の内容として、仏教年中行事について学びましょう。

ここでは、日本のどの宗派においても行う通仏教的な年中行事と浄土宗独特の年中行事に分けて紹介します。

=== スライド番号 : 11 / 34 ===

代表的な通仏教的年中行事としては、修正会、涅槃会、春・秋の彼岸会、花まつり、施餓鬼会、お盆（盂蘭盆）、成道会、除夜会などが挙げられます。

=== スライド番号 : 12 / 34 ===

●修正会とは、正月にあたってその年の世の中の安穏、つまり災害や疫病などが起こりませんよう、五穀が豊かに実りますよう、人々が幸せに暮らせますようにと祈願する法要です●２月15日に行われる涅槃会とは、お釈迦さまが入滅された2月15日に勤める法要で、お釈迦様への追悼報恩のための法要です。●3月と9月の中旬から下旬には、彼岸会が行われます。これは太陽が真西に沈むお彼岸の時期に、西方にある極楽浄土を想い行う法要です。極楽の世界にいる先祖のための墓参りも行なう、日本人にはおなじみの行事です。なお、お彼岸におなじみの食べ物である「ぼたもち」と「おはぎ」。まったく同じ食べ物であるのに、春に咲く花「ぼたん」と秋の「萩」になぞらえ、呼び方を変えるのは興味深いですよね。

=== スライド番号 : 13 / 34 ===

●4月8日に行われる花まつりは、仏教の開祖であるお釈迦様の誕生を祝う法要です。このことから仏陀降誕会とも言います。伝説によると、お釈迦様はルンビニー園という花が咲き誇る場所で生まれ、生まれた際には7歩歩き、「天上天下唯我独尊」とおっしゃったそうです。この誕生のシーンを再現するように、お釈迦さまの生まれたお姿である誕生仏を花で飾った花御堂でまつり、甘茶をかけるのです。●施餓鬼会とは、餓えに苦しむ世界に堕ちた方たちに飲食を施し、その功徳を先祖供養のために振り向ける法要です。お盆の時期に併せて行う地域も多くみられますが、本来は行う時期に定めはありません。

●お盆とは、7月、もしくは8月中旬に行う、亡きご先祖を極楽浄土からお家にお迎えして供養をする行事です。お盆の起源となったのは、お釈迦様の弟子である目連尊者が母を救うために行った盂蘭盆会という法要だといわれています。

=== スライド番号 : 14 / 34 ===

●成道会とは、お釈迦さまがさとりを開かれたこと（成道）を記念して12月8日におこなう法要のことです。

●除夜会とは、除夜の鐘を含む、大晦日の夜から元旦にかけて勤める法要のことです。１年間、自分が犯してしまった罪を懺悔して、来る新年の幸福を祈願します。除夜の鐘は108回衝きますが、これは108個の煩悩を消すためなどと言われています。この際の新年のまたぎ方については諸説あるようです。

=== スライド番号 : 15 / 34 ===

次に浄土宗独自の年中行事について見ていきましょう。

代表的なものとして、御忌会と十夜会があります。

=== スライド番号 : 16 / 34 ===

　御忌会とは、生涯をかけてお念仏の教えを説き弘めた宗祖法然上人のご命日1月25日に、その恩徳を偲んで営む法要です。 「御忌」とはもともと、天皇や皇后の忌日法要に対する敬称でしたが、大永３年(1523年)に、「法然上人の年忌を『御忌』とし、毎年1月に7日間の法要を勤めるように」との詔勅(しょうちょく)が後柏原天皇（ごかしわばら）から総本山知恩院に下されて以降、特に法然上人の忌日法要にこの言葉が用いられています。　 明治期に知恩院が日程を4月に変更してから、とくに大本山などではこの時期に勤める寺院が多くなりましたが、現在も1月25日またはその前後に勤めている寺院もあります。

=== スライド番号 : 17 / 34 ===

　十夜会とは、10月5日から十日十夜にわたって修される法要です。15世紀前半の永享年間に、京都の天台宗真如堂で始められ、浄土宗では1495年、鎌倉光明寺9世祐崇(ゆうそう)上人のとき行われたのが最初です。　十夜会は『無量寿経』の「この世において善行を十日間行えば、仏の世界において善行を千年間行うよりもすぐれている」との一文に基づき、十日間にわたり念仏を中心としてお勤めする法要です。　また法要では、塔婆供養や諷誦文回向によって先祖への供養も行われ、お米を供物としてあげる習慣が広く見られます。　これは、十夜が行われる時期が作物の収穫期に当たるため、収穫感謝祭と農事を守護してくれるご先祖さまに対する感謝のための先祖供養という意味が加わったと理解されています。

=== スライド番号 : 18 / 34 ===

3つ目に、浄土宗の葬儀と年回法要の意味について学びましょう。

=== スライド番号 : 19 / 34 ===

　まず浄土宗の葬儀の意味についてです。

私たちは臨終を迎えた際、阿弥陀仏のお迎えにより、極楽浄土へとお導きいただけます。

この絵は、阿弥陀様が多くの菩薩様を引き連れてお迎えにきてくれている様子を描いた「来迎図」です。

「南無阿弥陀仏」というお念仏を称える者、お念仏のみ教えと縁を結んだ者を阿弥陀様は必ず連れて行ってくださいます。

その際に、亡き方に向かうべき極楽浄土を示し、速やかに往き生まれることを願い、念仏をお称えする法要が浄土宗の葬儀なのです。

=== スライド番号 : 20 / 34 ===

　大切な人とのお別れは大変つらく悲しいものです。大切な方が極楽浄土へと旅立っていった。それでは、「もうその愛しい方には会うことはできないの？」と心配に思う方もいるかもしれません。　しかし、決してそのようなことはありません。極楽浄土は「倶会一処」と言われるように、この世でいただいたご縁と同じように、再び極楽の世界において、大切な方と再びお会いできる世界なのです。そのため、死とは永遠の別離などではありません。　浄土宗の葬儀とは、このような倶会一処の世界へとお見送りする儀式であるとともに、大切な人と極楽の世界において再会できることを確信する機会であるともいえるでしょう。

=== スライド番号 : 21 / 34 ===

法然上人がうたったお歌に、このような歌があります。

露の身は　ここかしこにて　きえぬとも

こころはおなじ　花のうてなぞ

朝露のようにはかなく　いつどこで消えるか知れない私たちの命ですが

共に往生して極楽の蓮の台で再びお会いしましょう

という意味ですが、

まさに、この倶会一処をうたったお歌です。

=== スライド番号 : 22 / 34 ===

では、ここで葬儀に関連する事柄について確認をしておきましょう。

まずは戒名です。法名とも言います。

お葬式の際に戒名をつけてもらうというイメージを持つ方がほとんどであるかもしれません。

この戒名とは、お釈迦様・阿弥陀様などの仏、仏さまの説かれた教えである法、仏さまを敬い、教えに従う人々である僧、この仏法僧の三つを信じる、つまり三宝に帰依することにより授かる仏教徒としての証なのです。

このことからも、本来は生前に戒名を頂いておくことが望ましいといえるでしょう。

=== スライド番号 : 23 / 34 ===

次に、葬儀の前後に行う儀式についてです。

臨終の後、亡き人を極楽浄土へお迎えいただくことを阿弥陀様にお願いする最初のお勤めを枕経といいます。亡くなってから、なるべく早くに僧侶にお勤めをしてもらいます。

●葬儀の前夜に行う式が通夜です。通夜とは「夜通し」の意味で、かつては夜通し読経をしたそうです。

=== スライド番号 : 24 / 34 ===

　葬儀の後には、７日ごとに 四十九日まで法要が営まれます。これは極楽の世界に往生した亡き人を包む蓮の花が早く開くことを願い、7日ごとに供養をするのです。

　ただし、これら枕経、通夜、７日ごとの供養に関しては、地域による違いも見られます。

　例えば、枕経、通夜を行わない地域も見られます。また７日ごとの法要をすべて行う地域もあれば、初七日と四十九日だけを行う地域もあります。

　逆に、通夜の前の晩に「仮通夜」という式を行うなど、法要の機会が多い地域もあるようです。

=== スライド番号 : 25 / 34 ===

　４９日の法要が終わった後にも、百ケ日忌、一周忌、三回忌、七回忌、13回忌のように、弔い上げなどと呼ばれる最終年忌に至るまで、年回法要が営まれます。

浄土宗の年回法要とは、どのような意味を持つのでしょうか？

=== スライド番号 : 26 / 34 ===

亡き人は、極楽の世界において阿弥陀様のもと、覚りの境地を深めようと励まれています。年回法要とは、 追善供養とも言いますが、「追善」とは、亡き人のために善い行い、つまり功徳を積むことです。法事という場を設け、心をこめて「南無阿弥陀仏」と称えることが最高の功徳です。つまり、法事によって積んだ功徳を、亡き人のもとへ届けていただく機会が年回法要なのです。　先ほど申したように、亡き人は覚りの境地を深めるべく阿弥陀様のもとで修行をしています。亡き人の修行が進むよう、私たちは年回法要において力添えをすることができるのです。

　もちろん法事で念仏を称えることは、私自身の功徳にもなります。

=== スライド番号 : 27 / 34 ===

では４つ目の内容として、仏壇の祀り方とお参りについて学びましょう。

=== スライド番号 : 28 / 34 ===

　お仏壇とは、実は、寺院の本堂を模した、いわばお寺のミニチュア版といえるものです。

　ではお寺の本堂とは何かというと、お経に説かれる西方極楽浄土の様子を表現したものなのです。

　西方極楽浄土の、いわばご主人様は阿弥陀様ですから、仏壇の一番上の段には本尊である阿弥陀様をお祀りしましょう。

その下の段に、お位牌をお祀りします。お位牌は、亡き人を表しますので、お仏壇で祀ったお位牌は、阿弥陀様のもとで生活している亡き人を表現しいてます。

=== スライド番号 : 29 / 34 ===

では、本尊はどのようなものを祀るのが正しいのでしょうか？もちろん阿弥陀様のお仏像を御本尊としてお祀りします。阿弥陀仏は立ったお姿である立像、座ったお姿である座像どちらでも構いません。阿弥陀仏の他にお祀りする対象は、仏壇の大きさにもよりますが、おおよそ図の４つのパターンとなります。●パターン１，阿弥陀仏のみお祀りする●パターン２，阿弥陀仏を中心としてまつり、向かって右に観音菩薩、左に勢至菩薩をお祀りする●パターン３，阿弥陀仏を中心としてまつり、向かって右に善導大師、左に法然上人をお祀りする●パターン４，阿弥陀仏を中心としてまつり、向かって右に観音菩薩、その外に善導大師、左に勢至菩薩、その外に法然上人をお祀りする

というものです。

=== スライド番号 : 30 / 34 ===

次に、お仏壇にお供えするお供え物についてです。●仏壇への日々のお供物は、饅頭などの生菓子・落雁などの干菓子、果物などの水菓子などです。向かって右にお菓子、左に果物を供えます。また毎朝、仏飯器でご飯、湯飲みでお水やお茶をお供えしましょう。●特別な日、たとえば月命日や祥月命日、春・秋のお彼岸、お盆などには、別に御霊膳を用意しましょう。飯椀（めしわん）には白飯やかやくご飯などを、汁椀にはお吸い物やお味噌汁を、「平椀（平）」には野菜の煮物、「壺椀（壺）」には煮豆やゴマ和え、おひたしなどを、そして中央の高杯には香の物を。食材は出汁を含めてすべて精進のものが原則です。

=== スライド番号 : 31 / 34 ===

次にお仏壇に飾るろうそくやお花についてです。

●香炉を中心として、燭台1対、花瓶1対のしつらえを五具足（ごぐそく）といいます。その際には、燭台を内側、花瓶を外側に置きます。

●香炉を中心として、燭台1本、花瓶1瓶のしつらえを三具足（みつぐそく）といいます。その際には、燭台を向かって右側、花瓶を向かって左側に置きます。

=== スライド番号 : 32 / 34 ===

では、今回の講義の最後に、作法の授与をしたいと思います。

浄土宗での合掌とその際の数珠の持ち方と礼の仕方です。

日々のお仏壇へのお参り、あるいは葬儀や法事への参列の際には是非実践してください。

=== スライド番号 : 33 / 34 ===

指を閉じぴったりと合わせ、手のひらを胸の前で45度ほど傾ける形、堅実心合掌が基本です。右手を阿弥陀さまに、左手を自分になぞらえ、いたらないわが身が阿弥陀さまによって救い導かれることの願いを表すともいわれています。お数珠をかける時には人さし指と親指の間に挟みます。浄土宗では、手をこすり合わせたりすることはありません。そして、合掌の形で礼拝をする場合には、上半身を３０度くらい前に倒します。その際には頭だけ前に垂らすのではなく、腰から前傾するのがポイントです。それでは一緒にやってみましょう。合掌・礼拝

以上で第２講を閉じたいと思います。

どうもありがとうございました。

=== スライド番号 : 34 / 34 ===

では、今回の講義の最後に、作法の授与をしたいと思います。

浄土宗での合掌とその際の数珠の持ち方と礼の仕方です。

日々のお仏壇へのお参り、あるいは葬儀や法事への参列の際には是非実践してください。

制作：浄土宗総合研究所　次世代継承に関する研究班（令和２・３年度研究成果）

制作担当：名和清隆